

## 研究結果報告書

「満州」における谷崎文学  
— 中国語新聞「盛京時報」と「大同報」を中心に —

所属：電子科技大学 日本語学部  
役職：専任講師  
氏名：尹 永順 （他 2 名）

本研究は「満州」で創刊された中国語新聞「盛京時報」と「大同報」を考察対象として谷崎文学の翻訳と受容状況について検討したものである。

「盛京時報」と「大同報」は「満州」の日本進出と深く関わる新聞であり、日本文学の発表の場としても大いに活用された。「満州」では、谷崎文学は主にこの二つの新聞で翻訳され、紹介された。そして、両方とも主な責任者は日本人であったが、文芸欄だけは中国人が編集を担当した。

「盛京時報」は1906年に日本人中島眞雄が奉天で創刊した中国語新聞である。「盛京時報」に連載された『麒麟』（1924）、『金と銀』（1924）、『春琴抄』（1939-1940）の翻訳、及び関連文章はいずれも文芸欄「神皋雑俎」の編集を担当した穆儒丐によるものであった。文芸欄に対する納本が求められる1934年までは主に中国人の創作のために参考となる文学性が重んじられた。その一方、1939年から連載された『春琴抄』の中国語訳は漢語語彙を多用して日本文化の異質性を強調し、注を通じて日本文化をこまめに紹介した。さらに、谷崎文学の耽美主義的特質を表現するような箇所については、教育や説教的な内容を補足して、作品の悪魔主義的傾向を薄めようとした。

「大同報」は「満州国」の機関紙として1932年に創刊された。1934年に連載された『麒麟』の他に、谷崎文学を紹介した文章も数点載せられた。『麒麟』は中国の古典「子見南子」を題材とした作品であるため、翻訳対象として選定されたと考えられる。谷崎文学を紹介する文章は、谷崎潤一郎を「人道主義」者に仲間入りさせたり、左翼作家でないことが指摘されたが、これはおそらく「満州国」への配慮ではないかと考えられる。

「盛京時報」に連載された『春琴抄』と同一翻訳者による1942年の単行本『春琴抄』をみると、連載時にあった説教、教育といった内容や説明が削除されていて、悪魔主義的な特質がありのまま表現されていた。単行本を出版した芸文書房は浪漫主義や耽美主義の影響を受けた作家たちが集まって、芸術のための芸術を主張し、文学性を重視していた。さらに、大衆向けの新聞と異なって、単行本の読者は文学愛好者であることも原因の一つだと考えられる。

研究成果の公表について(予定も含む)

口頭発表 (題名・発表者名・会議名・日時・場所等)

1. 「リライト理論からみた『春琴抄』の中国語訳について」, 「中日跨文化交际视角下的翻译研究与教学」国際シンポジウム, 中国天津外国語大学, 2014.6.1
2. 「新聞連載から単行本へ—穆儒丐訳『春琴抄』について」, 日本通訳翻訳学会第15回年次大会, 名古屋, 2014.9.13

論文 (題名・発表者名・論文掲載誌・掲載時期等)

「新聞連載から単行本化へ—中国語訳『春琴抄』における注について」, 投稿中

書籍 (題名・著者名・出版社・発行時期等)